

競技規則 第9条不正なプレー(危険なプレー・不行跡)

プレーヤーは、無謀な、または、他者に対して危険な行為はいかなるものもしてはならない。以下は危険な行為となる。

- a. ボールキャリアの際に腕を横に振り、相手を払い除ける行為。
- b. ボールキャリアの際に頸部、顔面、頭部へのハンドオフをする行為。(手を拳骨にすること、また頸部、顔面、頭部へのハンドオフや肩より下であっても相手を怪我させる恐れがあるほど過度に力がかかったハンドオフも危険な行為となる。/イラスト1およびイラスト2参照)

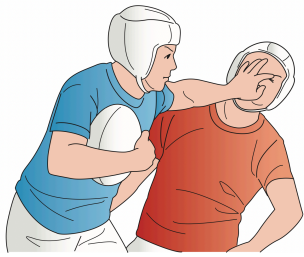


イラスト1 頸部、顔面、頭部へのハンドオフ

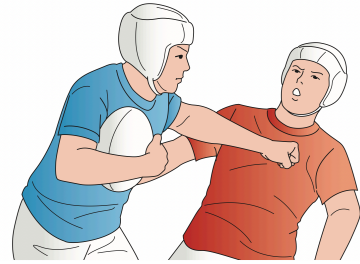


イラスト2 拳骨でのハンドオフ

- c. タックルされたプレーヤーか、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、足の間からボールを後方に押し出す行為(イラスト3参照)

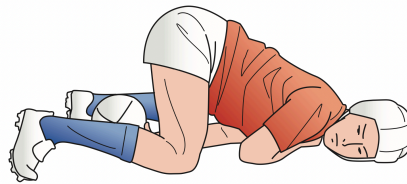


イラスト3 スクイズボール

- d. 胸部より上へのタックル(イラスト4参照)



イラスト4 タックルの高さ

- e. ノーボールタックル
- f. ノーバインドタックル
- g. 逆ヘッドとなるタックル(イラスト6 参照)

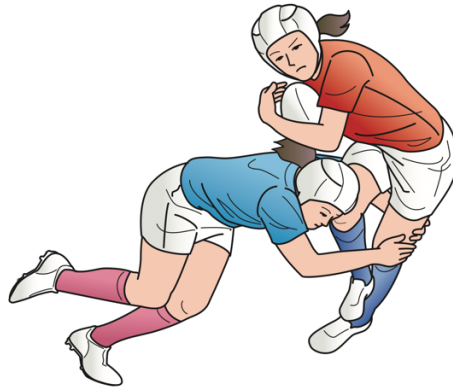


イラスト6 タックラーの頭が相手の進行方向にあること

- h. ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。
 - i. 襟を掴む行為。
 - j. 後ろ等から肩口を掴む行為。
 - k. 引き倒す行為。
 - l. 振り回す行為。
 - m. 相手を突き倒す行為。
 - n. 頭部を相手に打ち付けるような行為。
 - o. 故意に肘または膝を前に出して相手にあたる行為。
 - p. モール・ラックを崩す行為。
 - q. 地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。
 - r. 相手を怪我させるような行為。
- s. いずれのプレーヤーもモールへ参加する場合を含めて、全てのプレーや局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)プレーをする行為。

※具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック、モール形成時を含めて全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰より頭を下げたままプレーすることをいう。ボールの位置から離れたスリーブや頭の下がる突っ込み、ブリジシング、或いはボールに対して蓋をするような行為、下記のようなジャッカル姿勢(イラスト7およびイラスト8)も禁止となる。



イラスト7 足を揃えて頭を下げたジャッカル姿勢

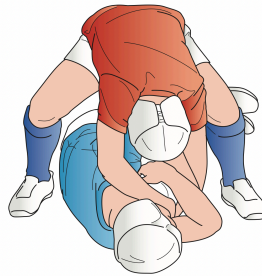


イラスト8 相手を跨いだ状態は問題ないが頭を下げ続けることは禁止

これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為も厳禁である。

罰:ペナルティキック

コーチについて【Original】

a. 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。またレフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーは、試合を停止しコーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、そのコーチを退場させることができる。この場合の退場とは速やかに競技場を離れることである。

b. コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者にその旨を報告する。

【確認事項】

脳振盪の疑いがあり、医師、指導者、レフリーの判断で競技を離れたプレーヤーは、当日の試合出場を認めない。また、その後のプレー復帰は日本ラグビーフットボール協会の定める脳振盪ガイドラインの段階的復帰プロトコル(GRTP)に従うこと。